

1月4日の中国本土株の下落について

ポイント① 上海総合指数は約7%の下落

2016年最初の取引となった1月4日、中国本土株は急落となり、上海総合指数は昨年末比6.9%、深セン総合指数は同8.2%下落しました。この日より導入された相場急変時に取引を一時停止する「サーキットブレーカー」制度が適用され、通常取引終了時間である午後3時(現地時間)を待たず、午後1時半過ぎに取引を終了しました。

ポイント② 弱い景気指標の発表がきっかけに

相場急落の直接のきっかけは、午前中に発表された12月の中国財新製造業PMI(購買担当者景気指数)でした。ブルームバーグ集計の事前の市場予想では、48.9と前月(48.6)から若干の改善が見込まれていたものの、発表された数値は48.2と前月水準を下回る結果となりました。

中国では昨年夏の相場急落時に、上場企業の大株主の持ち株売却を禁止する措置が導入されましたが、この措置は今週末の1月8日に解除されることになっています。これが株式市場の需給悪化要因になるのではないかと不安が高まるなか、依然改善が見られない景気指標の発表が中国景気の先行き懸念再燃につながり、今回の急落のきっかけとなったと考えられます。

ポイント③ 「サーキットブレーカー」制度を初適用

1月4日、中国の「サーキットブレーカー」制度がスタートしました。昨年夏の株式市場急落を受け、市場の急激な変動に対応するために、中国証券監督当局が導入を決めた制度です。

CSI300指数(上海・深セン証券取引所に上場するA株300銘柄で構成)の変動幅が前日比5%を超えると、すべての株式と先物の売買を15分間停止(午後2時45分以降は終日売買停止)、同7%を超えるとすべての売買を終日停止する仕組みです。

4日も午後1時10分過ぎにCSI300指数の下落率が前日比5%を超え、「サーキットブレーカー」制度に基づき、すべての株式の売買が15分間停止されました。その後、取引再開後も株式市場は下げ止まらず、同指数の下落率が同7%超となったため、この日の取引は終日停止となりました。

「サーキットブレーカー」制度が下落幅を抑制した反面、売りたいときに売れないリスクを意識した投資家の売りを誘発したとの見方も市場にはあります。なお、翌5日、中国証券監督当局は同制度について、実際の運用状況を踏まえ、継続的に改善に努めていく旨、コメントを発表しています。

図1：中国本土株指数の推移

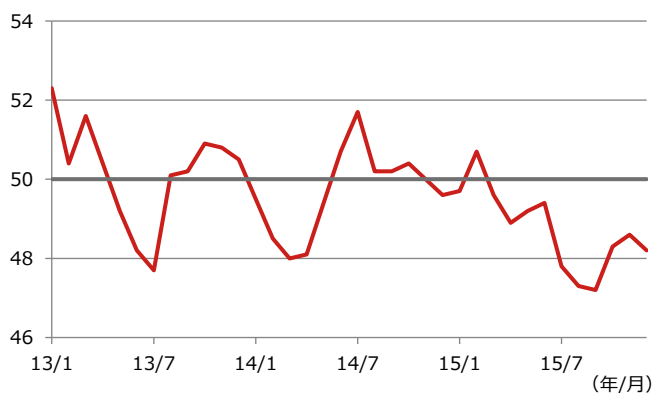
期間：2014年12月31日～2016年1月4日、日次



(出所) ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

図2：中国財新製造業PMIの推移

期間：2013年1月～2015年12月、月次



(出所) ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

図3：中国のサーキットブレーカー制度

(2016年1月4日導入)

| CSI300指数の前日比変動幅 | 株式の取引停止時間 |
|-----------------|-----------|
| | 15分 |
| 5%超 | 午後2時45分以降 |
| | 終日 |
| 7%超 | 終日 |

(出所) 各種報道より野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目録見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。